

科生徒ヲ廃止シ更ニ試験ノ上其合格者本
校生徒ニ轉入シ其他ハ總テ退校セシメ度ト
云ニ有之畢竟兩省上申ノ如ク既ニ學習
院ニ於テモ適當ノ教育法相立候上ハ最早
豫科生徒ヲ置クノ必要無之儀ニ付上申ノ通
御裁可相成可然哉左按ヲ具シ仰高裁候也
御指令按

上申ノ趣聞届候事

明治十八年八月二十日

明治十八年八月二十日

華族局 送第五七八号

太政官學局第四號

第二局



唐橋

二上

七一三〇

完規則中女子教科ヲ廢シ更ニ四ッ谷
町皇宮附屬地内ハ華族女學
校敷地ニシテ省所轄ニ相定候條此段及
御届
明治十八年九月
藤博文

太政大臣公爵三



明治十八年八月二十日

科生徒ヲ廃止シ更ニ試験ノ上其合格者ハ本校生徒ニ轉入シ其他ハ總テ退校セシメ度ト云ニ有之畢竟兩省上申ノ如ク既ニ學習院ニ於テモ適當ノ教育法相立候上ハ最早豫科生徒ヲ置クノ必要無之儀ニ付上申ノ通御裁可相成可然哉左按ヲ具シ仰高裁候也

御指令按

上申ノ趣聞届候事

明治十八年八月二十日

明治十八年八月二十日

華族局 送第五七八号

太政官學局第四號

第二局

學習院規則中女子教科ヲ廢シ更ニ四ッ谷區四ッ谷仲町皇宮附屬地内ハ華族女學校ヲ設置シ當省所轄ニ相定候條此段及御届候也
明治十八年九月十一日
藤博文

太政大臣公爵三條實美殿

唐橋

二上

七一三〇

科生徒ヲ廢止シ更ニ試験ノ上其合格者ハ本校生徒ニ轉入シ其他ハ總テ退校セシメ度ト云ニ有之畢竟兩省上申ノ如ク既ニ學習院ニ於テモ適當ノ教育法相立候上ハ最早豫科生徒ヲ置クノ必要無之儀ニ付上申ノ通御裁可相成可然哉左按ヲ具シ仰高裁候也

御指令按

上申ノ趣聞届候事

明治十八年八月二十日

明治十八年八月二十日

華族局

送第五七八号

太政官學局第四號

廢學部

田中

田中

學習院規則中女子教科ヲ廢シ更ニ四ッ谷區四ッ谷仲町皇宮附屬地内ハ華族女學校ヲ設置シ當省所轄ニ相定候條此段及

太田市作。同山本左登

守小平松次郎外一名召在

五日 宮内卿伯爵伊藤博文



太政大臣公爵三條實美殿

唐橋

二上

七一三〇

明治十八年九月八日

第二局

三條河原

高麗

田

長

印

印

印

別紙より本所に出る候様御事
左の如く
唐土四苦仙白雲寺傳馬村の
鶴置仙坊田原九郎

明治十八年九月八日
三條河原
高麗
田長
印

名。奈良縣三郎外七

明治八年九月八日

卷二局

三休御製

四
分
記
長



書



別紙より本居此の書様相の如く女子教育の
處に四苦併行の白雲の佛蘭西の如く並に女子学校
を設けし例の如く四苦併行の如く